

B-77 衣服原型の幾何学的研究 —袖山曲線に対する一考察—

日本女大家政 山田 善美 江 樋口ゆき子
東京大教養 磯田 浩

目的 袖山、袖付曲線に関する研究には、曲線を数式で表わす方法、形状値を変えたパターンで実際に着用実験する方法、展開による方法などがある。袖、身頃の曲面は被服構成の上では本質的に簡単な曲面であるので、ここでは最も簡単な幾何学的形状におきかえたとき、主として、袖付の角度変化に対する袖山線の変化を展開によって比較研究する。

方法 袖のパターンは肩部の傾き、特に袖付面が前後、上下の両方向に対し傾いている角度に、主に依存すると考えられる。そこで、今回は袖付面を平面とし、袖を上部に回転面を含む楕円柱と考え、袖付平面の前後方向への傾き、鉛直方向への傾きを変数にとり、袖と袖付平面との交線を図的に定め、袖部の展開図を求めた。

結果 袖を楕円柱、袖上端部分を楕円弧回転面と考えることにより、袖山曲線の形状をより理論的なものとする事ができた。また、袖山のいせごみ量も割り出すことが可能となった。袖付平面の前後方向、鉛直方向への傾きが変化した時に、袖山曲線がどのように変化するかを作図によってもとめられ、それらを比較、分類することが可能となる。